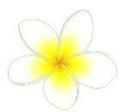




ມາຈາກແຄມຂອງ~メコン川のほとりから~ 第7号



サバイディーピーマイ！（新年あけましておめでとうございます！ピー：年、マイ：新しい）
現在、青年海外協力隊としてラオスで活動中の本校教諭のコウラです。

○●ラオス人と宗教●○

ラオスでは人口の60%以上が上座部仏教を信仰しており、30%以上が精霊信仰（アニミズム）と言われています。キリスト教徒、イスラム教徒もいるとのこと。アニミズムの信者は仏教の教えも同時に信仰しているケースもあり、逆に仏教徒もアニミズムの影響を受けている場合が多いです。ラオスでは、人々の生活の中にとっても自然に宗教が溶け込み、そして人々の生活を支え、人と人とを結びつけているような印象を受けます。今回は、ラオスでとても有名な儀式を2つ紹介します！

< 托鉢（たくはつ）・喜捨（きしゃ） >



ラオスにはお坊さんがたくさんおり、修行の一つとして「托鉢」を行います。生活に必要な最低限の食料などを信者からもらう行為のことを言い、信者があげる行為のことを「喜捨」と言います。ラオスのお坊さんは毎朝、托鉢を行うために裸足でお寺の近くをまわり、ラオスの人々は伝統衣装を身に付け道に座り喜捨を行っています。すごく簡単に言うと、托鉢を行うことで、信者に“善いことをさせてあげる（徳を積む）”、そして“徳を積んだ信者は来世でより幸せに暮らせる”と考えられています。

< バーシー・スー・クアンの儀式 >

冠婚葬祭などの人生の節目を主として、お祝いの場合（出産・結婚、門出や歓迎のとき、ラオス新年など）と、お葬式のあとに悪い流れを断ち切るためなど、ありとあらゆる行事の際に行われます。部落の長老などの祈祷師が儀式を進め、当日の主役（新年の場合などは参加者）の幸せ・安全・健康や繁栄を祈る儀式です。祭壇に供えた白い糸の束でお祓いを行った後、当日の主役の手首にその糸（紐）を1本結び、その後参加者全員で互いの幸せ等を祈りながら紐を結び合い、それらの紐は最低でも3日間つけておきます。「悪いものが出ていきますように、良いものが入ってきますように」と多幸を祈りながら手首につけるのですが、すべての生き物に靈魂（クアン）が備わっていると考えるラオスの人々は、正しく強い魂（=力）が身体の中に入るように、そして出て行ってしまわないように留めておくためにこのバーシーの儀式を行います。



= インタビューコーナー =

コウラの活動先である「サバナケット教員養成校」のアンポン先生にお話を聞きました！
学校を取り仕切る事務所のトップの先生ですが、とっても気さくで優しい英語の先生です♪
今回はラオ語で答えてもらったものを日本語訳しました。原文も写真でちょっとだけ紹介！

Q. 日本での滞在歴を教えてください。

2002～2004年に神戸大学で研修、
2008～2010年に筑波大学で英語教育の修士を取得しました。

Q. 日本・日本人の良いところはどんなところだと思いますか。

日本には私が良いと思うところがたくさんあります。
ですが、特に印象的だったことは以下の5つです。

- ① 日本人の仕事がとてもシステマティックであること、時間に正確であること。
- ② 官公庁の手続きが早いこと、書類などを提出するシステムがとても簡単であること。
- ③ 電話通信システムがとても良いこと。
- ④ 海鮮料理がとてもたくさんあること。
- ⑤ 日本人は勤勉で丁寧に高いレベルで仕事をし、正直であろうとするところ。



②国の機関に申請したり許可を得たりする場合、ラオスでは本当に時間がかかります。

④ラオスは海のない内陸国のため、魚介類はメコン川でとれるもの・養殖・輸入したものが中心。そのため日本ほど種類がなかったり高かったり鮮度が落ちてしまったりします。

ちょっと補足

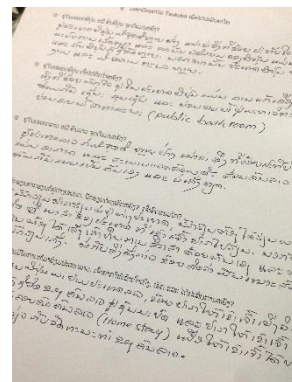


Q. 日本で驚いたことはなんですか。

温泉、大学の寮の大浴場、銭湯などの“お風呂事情”にはとてもびっくりしました。



ラオスでは浴槽はなくシャワーが一般的。寮の学生は皆水浴びをすることもありますが、そのときも裸ではなく布を巻いています。



Q. ラオス・ラオス人の良いところはどんなところだと思いますか。

寒くないところ、空気がきれいなところ、
ラオス人は自分のことを話すことが好きで、あまり緊張しないところ、です。

Q. 海外で勉強をしたいと思う学生は、どんなことをしておくべきだと思いますか。

もし学生が海外で勉強をしたいと思う場合は、しっかり勉強をすること、高い成績を修めること、英語あるいは行きたい国の言語をしっかりと勉強し準備をすること、が必要だと思います。ですが、自身のお金だけで海外で勉強をすることができないラオスの学生にとって最も重要なことは、奨学金を得るための試験を受けなければならないことです。多くのラオス人学生は海外で勉強するための奨学金の情報を得られなかったり、奨学金を得るための試験が首都ビエンチャンで行われるために都市部に住んでいる学生しかその情報を知らなかったりしています。首都以外に住む学生は、首都へ行くことだけでも金銭的に難しく、試験を受けられない場合が多いというのが現状です。

Q. もし日本の学生がラオスを訪れる機会があれば、どんな経験をしてほしいですか。

ぜひ実際の田舎の方で暮らしているラオス人の生活を見てほしいです。そして、可能であればホームステイをして、ラオス人の文化について肌で感じて欲しいと思います！

これって何？どこ？と思ったら、ぜひ調べてみてください。次号へつづく！